

○Web サイトにオプトアウトする書式

「 外来患者の全大腸内視鏡検査における前処置遅延の要因調査 」

○研究の概要

熊本医療センター消化器病センターでは、大腸内視鏡検査（TCS）の前処置に関する研究を行っています。近年、大腸がんの罹患率が増加しており、それに伴いTCSの件数も増加しています。TCSを受ける患者さんは、検診目的のほか、便潜血や憩室出血の精査、大腸がんの術前術後、炎症性腸疾患（IBD）の精査など、さまざまな背景を持っています。その中で、TCSの前処置が遅れる患者さんが1週間に5～6名、前処置が不良な患者さんが2～3名程度確認されています。前処置の遅延には、身体的要因や環境要因など複合的に関与していると考えられます。本研究では、TCSの前処置が遅れる要因を明らかにしたいと考えています。

○研究の目的と方法

外来患者のTCSにおける前処置遅延の要因を調査することを目的にしています。後方視的に診療録より「身体的要因」「環境的要因」の内容を電子カルテより情報収集します。

○本研究の参加について

研究に使用する情報は、診療記録などから匿名化された形で収集され、個人が特定されることはありません。本研究は、診療記録を用いた後方視的研究であり、個別に同意をいただくことはありませんが、研究内容を院内掲示等で周知し、情報の使用を希望されない方には、申し出により対象から除外いたします。

ご自身の診療情報が本研究に使用されることを望まれない場合は、下記の連絡先までご連絡ください。

○調査する内容

身体的要因：年齢、性別、ADL、BMI、認知症・糖尿病・透析・うつ病の有無、向精神薬使用の有無、炎症性疾患の有無、下剤常用の有無、腹部手術歴の有無、大腸疾患の有無（検査結果）

環境的要因：前日の下剤内服の有無、その後の排便の有無、前日の食事は低残渣食であったか、内服開始時間、モビレップ800mlを1時間で飲水したか、排便の性状が液体になった時間、モビレップ内服総量、アロンチックスケール、モビレップに対する不安や緊張の有無、内視鏡検査に対する不安や緊張の有無、自宅モビレップ内服の有無、前処置が透明になるまでの時間が遅延するかどうか

○実施期間

研究対象期間：令和 7年 3月 25日～令和 7年 9月 30日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和 8年 3月 31日まで

○研究成果の発表

未定

○研究代表者

外来看護師 緒方紀海子

○当院における研究責任者

外来看護師 緒方紀海子

○問い合わせ先

熊本医療センター 消化器病センター

担当者：緒方紀海子